

専門医に聞く

がんカテーテル治療

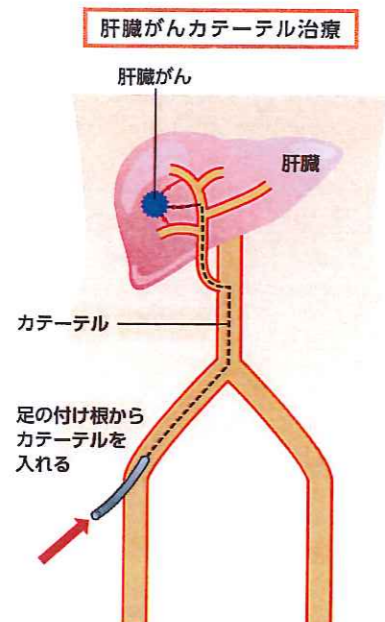
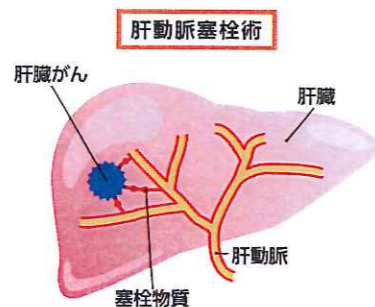
カテーテルと呼ばれる細い管を足の付け根の動脈から体内に入れ、がんに栄養を送っている動脈から抗がん剤を注入する「がんカテーテル治療」。正常組織への悪影響が少なく、がん組織をピンポイントでたたくことができる。コンフォート病院（横浜市西区）では、末期がん患者を中心に治療している。後藤康之院長は「がん治療を簡単におきめられないでほしい」と話している。

■治療の方法

- ①局所麻酔を行い、血管内にカテーテルを挿入する。
- ②血管造影を行う。
- ③腫瘍に栄養を運んでいる動脈を探す。
- ④動脈塞栓が可能かを検討する。
- ⑤抗がん剤を動脈内に注入する範囲を検討する。
- ⑥動脈塞栓剤や抗がん剤を動脈に注入する。
- ⑦薬剤の副作用軽減措置を計る。

■どのような患者に行える治療か

- ①全身状態が比較的良好で日常生活が独立している人。心機能、呼吸機能、肝機能、腎機能などに問題の少ない人。
- ②画像診断で腫瘍の確認が可能な人。
- ③積極的にがん治療を希望している人。がんと戦おうとしている人。



「どのような治療ですか。がんの近くにある動脈までカテーテルを入れ、がんにできるだけ近づけて抗がん剤を注入する治療法です。がんの消失や縮小を目指します。当院では、肺、乳腺、食道、胃、大腸、直腸、肝臓、胆のう、すい臓、胆管、腎臓、ぼうこう、前立腺、子宮のがんを対象に保険診療を行っています。」

「どこから抗がん剤を注入します。どのような効果を期待しているのですか。全身に薬剤が行き渡らせる一般的な抗がん剤治療に比べ、10倍から20倍の濃さの薬剤をピンポイントで少量投薬します。抗がん剤がほかの臓器などに流れていくことが少なく、がんに到達してがん細胞を殺す効果が高まります。その一方、体に入る薬剤の総量は少ないため、副作用を抑える狙いもあります。」

「まず、CT（コンピュータ断層撮影装置）などの画像診断装置などを使って、がんの場所や大きさ、広がり、内部の状態などができる限り詳しく調べます。治療は、局所麻酔をして足の付け根部分から、カテーテルを動脈に入れることから始めます。カテーテルの先から造影剤という薬を出し、血管造影装置を使って血管の位置を把握しながらカテーテルをがんの近くまで進ませます。がんは栄養分を動脈の血液から得ています。その血管を探し、

「ここから抗がん剤を注入します。どのような効果を期待しているのですか。全身に薬剤が行き渡らせる一般的な抗がん剤治療に比べ、10倍から20倍の濃さの薬剤をピンポイントで少量投薬します。抗がん剤がほかの臓器などに流れていくことが少なく、がんに到達してがん細胞を殺す効果が高まります。その一方、体に入る薬剤の総量は少ないため、副作用を抑える狙いもあります。」



血管の状態を画面で確認しながら行われるがんカテーテル治療（コンフォート病院提供）

おとわり 掲載日を当初予定の18日から変更しました。

▼後藤 康之（ことし、やすゆき） コンフォート病院院長。61歳。東京医科大学卒業。武蔵野赤十字病院、新東京病院を経て、2012年から現職。日本放射線学会専門医（診断、治療、核医学）。

「どのよう治療ですか。がんの近くにある動脈までカテーテルを入れ、がんにできるだけ近づけて抗がん剤を注入する治療法です。がんの消失や縮小を目指します。当院では、肺、乳腺、食道、胃、大腸、直腸、肝臓、胆のう、すい臓、胆管、腎臓、ぼうこう、前立腺、子宮のがんを対象に保険診療を行っています。」

「ここから抗がん剤を注入します。どのような効果を期待しているのですか。全身に薬剤が行き渡らせる一般的な抗がん剤治療に比べ、10倍から20倍の濃さの薬剤をピンポイントで少量投薬します。抗がん剤がほかの臓器などに流れていくことが少なく、がんに到達してがん細胞を殺す効果が高まります。その一方、体に入る薬剤の総量は少ないため、副作用を抑える狙いもあります。」

ピンポイントでたたく



コンフォート病院
後藤 康之 院長

がんの近くから 抗がん剤を注入

正常組織への悪影響少なく

「塞栓物質」を血管内に注入する治療です。がんが栄養を得ている血管の流れを遮断し、がんを兵糧攻めにします。血管の流れが止まると、抗がん剤はがん周辺に高濃度のままとどまることになり、がんの成長抑制が目的で、主に肝臓や腎臓への治療に使われます。がんカテーテル治療はどのような患者さんに行っているのですか。がんの3大療法と呼ばれるのが、手術、抗がん剤治療、放射線治療です。これらの治療を終えて、現状以上の治療効果が期待できなくなった方、抗がん剤が効かなくなった方、がんが再発した方に行うことがほとんどです。別の病院で余命を告げられ、「最後のチャンス」と考えて来院される方も多います。

「治療時間はどのくらいで、痛みはありますか。基本的には30分から1時間程度です。足の血管にカテーテルを通すときに、局所麻酔を行います。麻酔の針を刺すときに、ちくちくとした痛みはありますが、動脈には神経がないので、治療中に痛みを感じることはありません。患者さんへのメッセージをお願いします。治療には、患者さん自身の「がんを克服したい」という意志が最も重要です。がんの痛みを抑えたり、だるさを改善したりと、生活の質を向上させる効果もあります。がん治療を簡単に決められないでほしいと思います。カテーテル治療を開始する際には、最適な治療の選択が重要となります。どのような治療をするのか、担当医と話し合い、家族とも相談して納得のいく決断をすることが大切です。」